


<参考>様式第2号

2016年 8月 16日

豊明市議会議長 殿

行政等視察報告書

議員名 清水義昭 

28年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
2016年7月19日	千葉県市川市	ガンデニングシティ いしかの平菜
2016年7月20日	東京都練馬区	小中一貫教育

豊明市議事課
28.8.16
分類 . . 30・10・5・1
可・否・一部否・一時否
第452号 受付

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

視察報告書

2016年8月16日

清水 義昭

題目：清澄会派視察

日付：2016年7月19日

場所：千葉県市川市

項目：ガーデニングシティいちかわ事業について

概要

行政が場を提供することによって仕組みを作り、市民の誰もができるガーデニングを通じて協働を促進し、まちの個性を活かしながら、いつまでも住み続けたいまちを目指して景観まちづくりを進める。

詳細

東京のベッドタウンとして市街化が急速に進展し、人口が急増。生活環境の向上や、都市基盤整備を優先したまちづくりを行い、歴史的な街並み景観が減少してしまった。千葉都民と言われる、東京都区部に通勤、通学する新しい住民が増加し、地元への密着性が希薄しているという課題と問題意識を持ち、平成13年に景観まちづくりマスタープランの策定を開始。市民参加、協働を進めている。

景観まちづくりには、都市景観形成とガーデニングシティの2つの柱を置いた。これらは市長のトップダウンで行い、毎年、施政方針で優先事項とされる。オリジナルキャラクターやロゴマークを創り、活動の後押しをする。

行政はハード面で魅力ある空間を演出し発信。市民や事業者は自分の庭や用意された花壇のボランティア、清掃美化などのソフト面で、花を介した交流や出会い、協働による彩りをアップする。

サポーター制度により事業啓発を行い、ガーデニングフェスタにて市外にPR。コンテストを開催することで意識を高揚させ、花育と名付けた、種からの花づくりで学校や保育園など地域との交流を行う。ボランティア活動制度により生きがいを提供し、バスツアー、物々交換、ハーブ講習などを通じ交流する。

今後の課題は、固定化してしまっている参加者以外の方に参加してもらうこと。

感想

昨年度が900万円弱と、少ない予算で市民協働を促進する事業として継続できており、市民の誰もが参加できるうえ、まちの景観が向上することは大いに参考にできる。今後、本市にあった形での提案をしていきたい。

視察報告書

2016年8月16日

清水 義昭

題目：清澄会派視察

日付：2016年7月20日

場所：東京都練馬区

項目：小中一貫教育について

概要

学力・体力の向上、豊かな人間性・社会性の育成、安定した学校生活の3つを通して、学習意欲や自己肯定間の向上、不登校の減少を目指し、小学校や中学校が9年間を見通した小中一貫教育を行う。

詳細

施設一体型の小中一貫教育により、1年生から9年生（中学3年生）までの9年間を見通した教育を実践。1～4年生をⅠ期、5～7年生をⅡ期、8・9年生をⅢ期と位置付け、Ⅰ期のリーダーとなった4年生が委員会活動に取り組んだり、Ⅱ期の7年生が防災リーダーとして活動したりしている。初めのうちは他小学校から新中学生が入ってくると、戸惑いがありうまくいかなかったが、仕組みを整え解決した。中一ギャップが解消され、中二ギャップもない。

行政主導で小中一貫教育を開始。何度も説明することで地元の理解を得た。学区の見直しなどの課題については、越境通学や対象学区の児童生徒が、選択制および抽選により希望の中学校に入ることを可能として解決。教育カリキュラムを整え、転入転出の際の相手校との温度差を少なくしている。

初めのうちは小中学校の教員同士の話し合いが少なく、双方が理解をしない状態となっていたが、順に理解しあい、お互いがその良さを活かせるようになってきた。一貫とすることで児童生徒に問題行動があっても対応しやすくなった。

運動会や祭りを全校で実施するなど、幅広い学年交流を行うことにより、子どもたちの自己肯定間を高めることができ、安定した学校生活につながっている。

今後の課題は、学力の向上やいじめが減ったのかなど、効果の検証。

感想

学区の調整について、地元の理解を得ながら進めたことなど、しっかりと考えられ、参考にできる部分が大いにあった。効果が高いと思われる施設一体型小中一貫教育校を、本市にあった形で、適切な時期に提案していきたい